

# MAIL MAGAZINE

メールマガジン

## 船のおはなし

### JSC 貿易部ニュース 中国編

いつもお世話になります。毎号当メルマガに目を通して頂き誠にありがとうございます。

今月のメルマガは、普段わたしたちの大切な商品を運んでくれている“船”にスポットを当ててご紹介してみたいと思います。

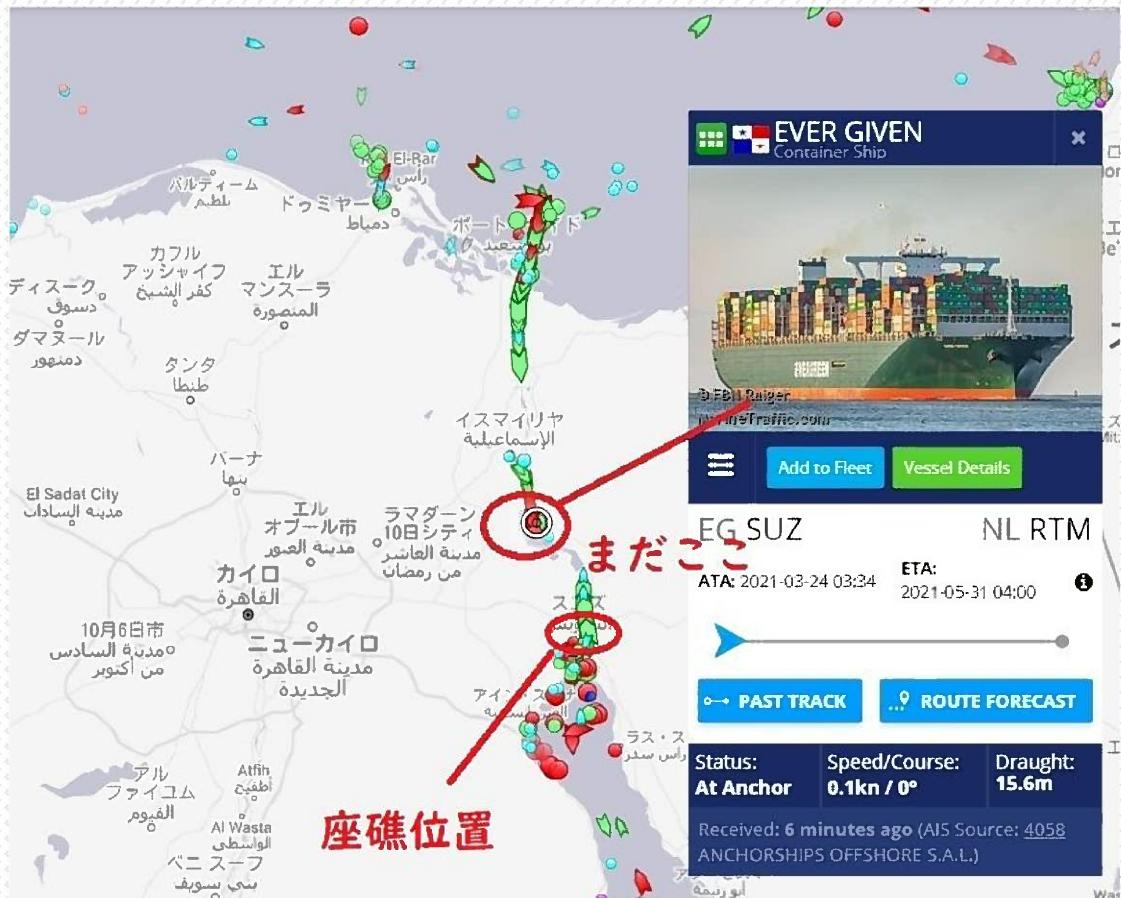
今年の3月、地中海と紅海を結ぶスエズ運河で一隻の巨大コンテナ船が座礁しました。世界的なニュースとして報道されたことからご記憶の方も多いと思います。



船の先端が浅瀬に乗り上げ、運河を塞ぐ形で身動きができなくなった大きなコンテナ船。船名は「エバーギブン号」。愛媛県の船会社が所有しているコンテナ船ということで、日本でも大きなニュースになりました。

さて、このコンテナ船、現在はどうなっているのでしょうか？

実は5月末現在、まだスエズ運河内の現場近くの港に停泊させられています。



事故当初、渋滞に巻き込まれた船が400隻あまりもあったため、「スエズ運河が使えないことで1時間当たり・400億円規模の損害額が発生する」などと言われていました。

最終的にエジプト運河庁は、船会社に対し約1000億円の賠償金を請求しましたが、船会社側は妥当性を不服とし支払いを行わなかつたため、エジプト裁判所の命令で本船が差し押さえられた、というのが現在の状況のようです。

このエバーギブン号、積載量は20フィートコンテナ換算で2万個という巨大コンテナ船です。石材業界の単位である才数で換算すると500万才を1度に積めることになります。

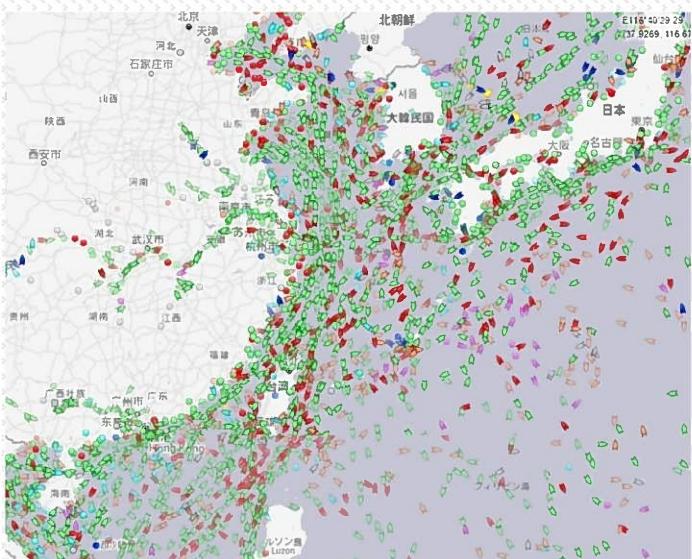
パッとは見当がつかない量ですが、ざっくり言いますと日本の石材業界が1年間で輸入する石材の総量と同等の量を、このコンテナ船1隻で運べるということです。

それだけの量の荷物を運ぶということは、それだけ多くの荷主やお客様が存在し、また物流に携わる乙仲事業者や運送業者がいたということあります。

それら多数の関係者が、どれだけこの事故に気を揉んだかを少し想像するだけで、胃がキリキリしてくる気がします。

昔の話になりますが、船会社が突然倒産したせいで、出港したはずのコンテナ船が行方不明になるというトラブルに私自身も遭遇したことがあります。

また毎年夏から秋にかけては、台風で運航スケジュールに影響が出ることもありますし、昨年からはコロナの影響でコンテナ不足、港湾作業の人手不足が常態化し、船の運航にも大きな影響がでています（たびたびご迷惑おかけして、申し訳ございません）。



話は戻って、なぜ「エバーギブン号」の現在位置が分かるのかいうと、様々な船の動静を調べることができるインターネットサービスがあるからです。左の画像の緑や赤の小さい点ひとつひとつが、1隻の船を表しています。

東京や大阪、香港、上海、釜山などの大きな港の周辺は、非常に混み合っているのが分かります。私たちはこのようなサービスを使って、日頃から船の現在位置や遅延状況などをチェックしています。

物流系のメディアによりますと、今後もしばらくは新型コロナとコンテナ不足による遅延が続くという予測がありますので、当分はこのサービスのお世話になりそうです。お客様におかれましても、なるべく余裕をもった納期をご説明いただければ幸いに思います。

（引用：<https://www.jmd.co.jp/article.php?no=265792>）

『コンテナ不足長期化も。「9月まで」見方広がる。港湾混雑 解消見えず』日本海事新聞

世界的な海上コンテナ不足に収束の兆しが見えず、船社や物流事業者、荷主と、サービスの売り手・買い手双方を悩ませている。昨年秋から悪化に拍車が掛かったコンテナ不足だが、当初は今年2月の中国・旧正月休みまでか、遅くとも5月ごろまでには落ち着くという見方が強かった。ところが一向に状況に変化はなく、さらに長引く気配が漂っている。

さて、今月の中国の石材のトピックです。

インドをはじめとする諸外国の石は、新型コロナの影響を受け供給量が縮小傾向です。一方、中国国内に目を向けますと、新しい石が出てきたり、以前の丁場を再開発するといった流れが見受けられます。

その中でも関東から東海方面のお客様に喜ばれそうのが、「甫田G 6 5 4」のリバイバルです。

丁場は数年前に閉鎖しておりましたが、最近になって地元の不動産開発に伴い、再稼働しているようです。継続性の点では疑問符が残りますが、細目のG 6 5 4の選択肢が少なくなっている状況の中では、過去の実績等から考えるとご利用いただきやすい石のひとつと言えるのではないでしょうか？

「甫田G 6 5 4」リバイバル。ご興味ありましたら、弊社営業員までお問い合わせくださいませ。



今月は以上ですが、まだまだ感染対策に注意が必要な状況が続きそうです。  
どうか皆様くれぐれもご自愛ください。

2021/06/01